

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2025.10.27-11.2

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

12:1 宣告。イスラエルについての【主】のことば。天を張り、地の基を定め、人の霊をそのうちに造られた方、【主】の告げられたことば。

12:2 「見よ。わたしはエルサレムを、その周りのあらゆる民をよろめかせる杯とする。エルサレムが包囲されるとき、ユダについてもそうなる。

12:3 その日、わたしはエルサレムを、どの民にとっても重い石とする。すべてそれを担ぐ者は、身にひどい傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来る。

12:4 その日——【主】のことば——わたしはすべての馬を打って驚かし、その乗り手を狂わせる。しかし、わたしはユダの家の上に目を見開き、もろもろの民のすべての馬を打ってその目を見えなくする。

12:5 ユダの首長たちは心の中で言う。『エルサレムの住民は、彼らの神、万軍の【主】によって私の力となる。』

12:6 その日、わたしはユダの首長たちを、薪の中にある火鉢のようにし、麦束の中にある燃えるたいまつのようにする。彼らは右も左も、周りにいるどの民も焼き尽くす。しかしエルサレムはなお、元の場所エルサレムに残る。

12:7 【主】は最初にユダの天幕を救う。ダビデの家の栄えと、エルサレムの住民の栄えが、ユダ以上に大きくならないようにするためである。

12:8 その日、【主】はエルサレムの住民をかくまう。その日、彼らの中のをよめき倒れる者もダビデのようになり、ダビデの家は神の

ようになって、彼らの先頭に立つ【主】の使いのようになる。

12:9 その日、わたしはエルサレムに攻めて来るすべての国々を根絶やしにしよう。

12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。

12:11 その日、エルサレムでの嘆きは、メギドの平地のハダド・リンモンのための嘆きのようになり大きくなる。

12:12 この地は、あの氏族もこの氏族もひとり嘆く。ダビデの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。ナタンの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。

12:13 レビの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。シムイの氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。

12:14 残りのすべての氏族は、あの氏族もこの氏族もひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。

おなじゼカリヤ書の中で、主はイスラエルへのさばきと、またさばかれるイスラエルへの憐れみとが書かれています。その両者はどちらが本来のみこころなのかと思うほどに、矛盾しているようにさえ感じます。しかしそのどちらも主のみこころなのです。

主は義なる方であり、また愛のお方です。旧約を読むだけでは矛盾しているような両方の御性質は、まさにイエス様の十字架で両立したのです。

この箇所ではイスラエルへの憐れみゆえの回復が記されています。そして実際にイスラエルはまた神殿を再建することができました。また第二次

大戦後には国を再興することができました。

私たちも同じ主に導かれています。主の義を表すことの喜びに生きながらも、従いきれない弱さを感じたならば、素直にそれを認めて主の憐れみにすがりつつ、主のみわざを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 火曜

ゼカリヤ



13:1 その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。

13:2 その日——万軍の【主】のことば——わたしはもろもろの偶像の名を、この地から絶ち滅ぼす。それらの名はもう覚えられない。わたしはまた、その預言者たちと汚れの霊をこの国から除く。

13:3 なお預言する者があれば、その人を生んだ父と母が彼に向かって言う。『あなたは生きていてはならない。【主】の名を使って嘘を告げたから。』彼が預言しているときに、彼を生んだ父と母が彼を突き刺す。

13:4 その日、預言者たちはみな、自分が預言する幻を恥じる。彼らはもはや人を欺くための毛衣を着なくなる。

13:5 また彼は、『私は預言者ではない。私は土地を耕す者だ。若いときに人が私を買い取った』と言う。

13:6 だれかが『あなたの両腕の間にある、この打ち傷は何か』と聞いたら、彼は『私の愛人たちの家で打たれたものだ』と言う。

13:7 剣よ、目覚めよ。わたしの羊飼いに向かい、わたしの仲間に向かえ——万軍の【主】のことば——。羊飼いを打て。すると、羊の群れは散らされて行き、わたしは、この手を小さい者たちに向ける。

13:8 全地はこうなる——【主】のことば——。その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。

13:9 わたしはその三分の一を火の中に入れ、銀を鍊るように彼らを鍊り、金を試すように彼らを試す。彼らはわたしの名を呼び、わた

しは彼らに答える。わたしは『これはわたしの民』と言い、彼らは『【主】は私の神』と言う。』

ダビデの家とエルサレムはユダヤの国の中心です。すなわち、彼らがきよめられるということは、ユダヤ全体がきよめられるということです。そのきよめとは信仰のきよめです。特に神様のことばを扱う預言者はきよめにおいて重要です。ここでは偽の預言者が恥を見ることが明記されています。

私たちは神のみことばをいい加減に扱うことはしてはいけません。語る者もそうですが、聞く場合もそれが自分に語られたら、ないがしろにせず自分に照らし合わせて従いましょう。

7節には牧者が打たれることが記されていますが、これはイエス様の受難の預言であることがわかります。このことも含めて、神の民が苦難に会うことが分っていますが、それは主が私たちを鍊ってもっと高価なものとしてくださるのです。

三分の一の救いにあずかったものであることを感謝しましょう。また試練にあるときは主のみこころを求めましょう。それによって意味が分り、乗り越える意欲と希望が生まれます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



29日 水曜

ゼカリヤ



14:1 見よ、【主】の日が来る。あなたから奪われた戦利品が、あなたのただ中で分配される。

14:2 「わたしはすべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。都は取られ、家々は略奪され、女たちは犯される。都の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は都から絶ち滅ぼされない。」

14:3 【主】が出て行かれる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。

14:4 その日、主の足はエルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山はその真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ、残りの半分は南へ移る。

14:5 「山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたはわたしの山々の谷に逃げる。ユダの王ウジヤの時に地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げる。」私の神、【主】が来られる。すべての聖なる者たちも、主とともに来る。

14:6 その日には、光も、寒さも、霜もなくなる。

14:7 これはただ一つの日であり、その日は【主】に知られている。昼も夜もない。夕暮れ時に光がある。

14:8 その日には、エルサレムからいのちの水が流れ出る。その半分は東の海に、残りの半分は西の海に向かい、夏にも冬にも、それは流れる。

すべての国々がイスラエルを攻めるといような苦難があると預言されますが、「残りの民は町から

断ち滅ぼされない」と、主の憐れみと希望も残されていることが分ります。イスラエルの罪ゆえの結果ではありますが、そのような中でも主は愛を表してくださる方なのです。

その憐れみの頂点は、イエス様の十字架であり、その救いゆえに神の子とされた者への愛です。主イエスは十字架と復活で勝利されたからこそ、終りの日に審判者としてオリーブ山に立たれるのです。すなわち旧約の約束を成就すると同時に、新約の再臨預言を成就なさるのです。

常に主の憐れみに希望を抱きつつ、最終的な主の勝利を信じて、主のわざに励みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 木曜

ゼカリヤ



勝利をいただきましょう。

14:9 【主】は地のすべてを治める王となられる。その日には、【主】は唯一となられ、御名も唯一となる。

14:10 全土はゲバからエルサレムの南のリンモンまで、アラバのようになる。しかしエルサレムは高くそびえ、ベニヤミンの門から第一の門のところを経て隅の門まで、またハナンエルのやぐらから王家のぶどうの踏み場まで、元の場所にそのまま残る。

14:11 そこには人々が住み、もはや聖絶の物はなく、エルサレムは安らかに住む。

14:12 これは、【主】がエルサレムを攻めるどの民にも加えられる疫病である。彼らの肉は、まだ足で立っているうちに腐る。彼らの目はまぶたの中で腐り、彼らの舌は口の中で腐る。

14:13 その日、【主】からの大いなる混乱が、彼らの間に起こる。彼らは互いに手でつかみ合い、互いに殴りかかる。

14:14 ユダもエルサレムで戦う。周りのすべての国々の財宝は、金、銀、衣服など非常に多く集められる。

14:15 馬、らば、らくだ、ろば、彼らの宿営にいるすべての家畜にも、同じような疫病が臨む。

結局主はエルサレムを攻める異邦人をさばかれるのです。「大いなる混乱が彼らの間に起こる」とあります。どんなに強い敵でも、それ自身の内に混乱が起これば立ちゆきません。私たちは相手の強大さに目が奪われがちですが、主はその力を無力化できるお方なのです。

そのような神様の力は、約束された神の民だからこそ与えられるものです。敵に対して主が勝利を取られるということから、主の民として歩みましょう。そして主の

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 金曜

ゼカリヤ



14:16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。

14:17 地上の諸氏族のうち、万軍の【主】である王を礼拝しにエルサレムに上って来ない氏族の上には、雨が降らない。

14:18 もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、疫病が彼らに下る。これは、仮庵の祭りを祝いに上って来ない諸国の民を【主】が打つ疫病である。

14:19 これが、エジプトの罪への刑罰となり、仮庵の祭りを祝いに上って来ないすべての国々の罪への刑罰となる。

14:20 その日、馬の鈴の上には「【主】への聖なるもの」と刻まれ、【主】の宮の中の鍋は祭壇の前の鉢ようになる。

14:21 エルサレムとユダのすべての鍋は、万軍の【主】への聖なるものとなる。いけにえを献げる者はみなやって来て、その一つを取ってそれで煮るようになる。その日、万軍の【主】の宮にはもう商人がいなくなる。

異邦人は神様の律法を知らない民であり、またイスラエルに敵対するものも多いのですが、その中には主を慕うものが起こされて信仰を持つものがあると預言されます。これはまさに救いが全世界に及ぶことを暗示しています。

「主の聖なるもの」と刻まれるのは、主がすべてを聖められるということです。主の勝利とは主の聖めを同じことなのです。

主のみわざを求める者は主の聖さを求めましょう。自らも聖いものとなりましょう。それが究極的な主の勝利であり、同時に私たちの人生の勝利です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 土曜

テモテⅡ



1:1 神のみこころにより、またキリスト・イエスにあるいのちの約束にしたがって、キリスト・イエスの使徒となったパウロから、
1:2 愛する子テモテへ。父なる神と、私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますように。

1:3 私は夜昼、祈りの中であなたのことを絶えず思い起こし、先祖がしてきたように、私もきよい良心をもって仕えている神に感謝しています。

1:4 私はあなたの涙を覚えているので、あなたに会って喜びに満たされたいと切望しています。

1:5 私はあなたのうちにある、偽りのない信仰を思い起こしています。その信仰は、最初あなたの祖母ロイスと母ユニケのうちに宿ったもので、それがあなたのうちにも宿していると私は確信しています。

1:6 そういうわけで、私はあなたに思い起こしてほしいのです。私の按手によってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。

1:7 神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えてくださいました。

1:8 ですからあなたは、私たちの主を証しすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをとみにしてください。

パウロは祝福の祈りから始めています。このようにどんなときも、誰かと関わりを持つ場合は祝福のことばや祈りで始めましょう。いつでも誰かを祝福する思いを持ちつつ会話しましょう。

テモテはパウロから信任された若き牧師でした。

彼の純粋な信仰は、クリスチャン三代目であるからでしょう。信仰は個人の内面的なものです、幼い頃からの信仰的な環境は、その人に素晴らしい影響があるとわかります。家庭の霊的な雰囲気や信仰教育のために最善を尽くしましょう。

そこでパウロはテモテに勧めています。テモテは若いということもあって、少し引っ込み思案だったようです。私たちも「神の賜物を、再び燃え立たせる」ように、神様から求められている貨も知れません。主のためなら「恥る」ことはありません。主のまめに働く誰かと「苦しみをとみに」しつつ、「力と慎み」で再出発しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 日曜

テモテⅡ



1:9 神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自分の計画と恵みによるものでした。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられ、

1:10 今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされました。キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不滅を明らかに示されたのです。

1:11 この福音のために、私は宣教者、使徒、また教師として任命されました。

1:12 そのために、私はこのような苦しみにあっています。しかし、それを恥とは思っていません。なぜなら、私は自分が信じてきた方をよく知っており、また、その方は私がお任せしたものを、かの日まで守ることがおできになると確信しているからです。

1:13 あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛のうちに、私から聞いた健全なことばを手本にしてください。

1:14 自分に委ねられた良いものを、私たちのうちに宿る聖霊によって守りなさい。

1:15 あなたが知っているとおりに、アジアにいる人たちはみな、私から離れて行きました。その中にはフィゲロとヘルモゲネがいます。

1:16 オネシポロの家族を主があわれんでくださるよう。彼はたびたび私を元気づけ、私が鎖につながれていることを恥と思わず、

1:17 ローマに着いたとき、熱心に私を捜して見つけ出してくれました。

1:18 かの日には主が、ご自分のあわれみをオネシポロに示してくださいますように。エペ

ソで彼がどれほど多くの奉仕をしてくれたかは、あなた自身が一番よく知っています。

パウロは皇帝ネロの迫害により投獄され、この後斬首されて殉教しました。彼は自分が「信じてきた方を良く知って」いるので、それを少しも恥とは思いませんでした。「かの日まで守ることがおできになる」とは、単に獄から出られるというのではなく、永遠の命にいたる信仰が守られるということです。私たちも、様々な困難の中で信仰のために求めて祈りましょう。

あなたにゆだねられた良いものを「守るの」は「聖霊」によります。私たちの長所を生かし、才能を伸ばし、チャンスを生かすのは、神様から離れた勝手な努力ではなく、聖霊によるのだと知りましょう。主が私たちを造ったからです。

パウロはオネシポロの家族を非常に誉めています。テモテはこれ喜びとして聞いたでしょうが、中には自分以外の人が誉められると不愉快に感じる人もいます。本当の信仰の価値観を持った人はテモテのように、他人の栄誉を喜べる人です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

